

# 環境と安全 "Journal of Environment and Safety"

## (和文誌) 投稿規程

平成21年11月12日 制定  
平成21年12月14日一部改定  
平成23年12月8日一部改定  
平成25年7月18日一部改定  
平成26年7月24日一部改定  
平成27年7月23日一部改定

論文誌「環境と安全」は、年2回大学等環境安全協議会が発行する専門誌で、環境管理・環境安全およびその関連分野に関するオリジナリティーを有する原著論文、解説およびその他の関連する記事を掲載する。

会員、非会員、日本国内、国外を問わず投稿することができ、言語は日本語とする。投稿された論文は、編集委員会が専門家に査読を依頼し、その結果に基づき編集委員会が掲載の可否を決定する。

投稿はオンライン投稿のみとし、投稿の際には、この投稿規程を熟読すること。

### 1. 原稿の種類

- (1) 総説…大学等の高等教育研究機関（以下大学等という）の環境安全に関する研究の総括、文献解説
- (2) 原著…大学等の環境安全に関して、新たに構築された理論、開発した手法、発見した事実等に関する論文
- (3) 短報…原著に準じた論文を早期に短く報告するもの
- (4) 論説…大学等の環境安全に関する動向、展望、提言等
- (5) 報告…大学等の環境安全に関するケースレポート、フィールドレポート
- (6) その他…大学等の環境安全に関する書評、論文等の紹介等

### 2. 投稿ならびに出版にあたっての不正行為の禁止

- 2.1 連絡著者は投稿前に、必ず共同執筆者全員の同意を得ること。
- 2.2 本誌への投稿原稿は、未発表のものに限る。ただし、学会・協議会等での発表抄録等については、内容構成等をまとめ直した場合、既発表のものであっても差し支えない。その場合は、著者（共著者を含む）が著作権を有する等、投稿に際して支障のないものに限る。また、本文末に、発表時の表題、発表学会・協議会・研修会、発表年月日を記し、既発表の内容、構成等をまとめ直したものであることを明記する。
- 2.3 既に発表された他の研究者のアイデアや研究結果などを当該研究者の了解ならびに適切な引用をせずに流用すること、ねつ造や改ざん、著者としての資格を有しないものを著者とする行為は不正行為とみなす。
- 2.4 不正行為が行われた場合には、論文の受付、審査、掲載、掲載済み論文の撤回を行う。

### 3. 投稿にあたって

- 3.1 投稿は原則として、大学等環境安全協議会のホームページより電子媒体で投稿するものとする。
- 3.2 投稿は、(1) 原稿投稿票ファイル（Word又はPDF）と、(2) 表紙、要旨、本文、引用文献、表、図の説明、図、英文要旨、キーワードを1つにまとめたPDFファイル、の2つのファイルを投稿する。
- 3.3 刷り上がり1頁は2000字に相当する。表題と要旨は0.5頁程度であるが、表題が長い場合や著者が多数の場合は1頁に及ぶことがあるので注意を要する。
- 3.4 総説、原著、論説および報告は、原則として刷り上り10頁（図表を含む。以下同じ）以内とする。短報は、原則として刷り上がり4頁までとする。

### 4. 投稿原稿の取扱

- 4.1 総説、原著、短報、論説、報告等の掲載順は、編集委員会が決定する。
- 4.2 受付日は原稿が電子投稿された日付とする。
- 4.3 投稿後の原稿は、原則として修正できない。ただし、査読後、編集委員会により内容の修正等を指摘された

原稿については、著者による審査意見の指摘事項に対応するための訂正を可能とする。

4.4 原稿受理日は、編集委員会が審査の終了を確認した年月日とする。

## 5. 著作権

5.1 「環境と安全」掲載の著作物の著作権は、本協議会に帰属するものとする。他の出版物に掲載する場合には、本協議会の承諾を得なければならない。

5.2 機関リポジトリへの掲載は最終校正稿に限り本協議会への申請なくして可能とする。この場合、論文掲載情報、著作権が本協議会に帰属することを明示すること。なお、論文誌掲載版pdfは掲載することは出来ない。

5.3 学位論文への転載は本協議会への申請なくして可能とする。

5.4 著者は論文投稿時に著作権委譲に同意しなければならない。

5.5 他の出版物の著作権に抵触する場合は、著作権使用の承諾書を投稿原稿に添付する。投稿時に間に合わない際には、編集委員会事務局に事前に相談する。

## 6. 印刷に要する費用負担

6.1 「環境と安全」掲載論文は原則モノクロ印刷とする。ただしカラー印刷とする場合には、その費用は著者が負担する。代金は別表1の通りである。

6.2 投稿論文を掲載した者は、原則として著者負担によりその論文の抜き刷り印刷を50部以上購入しなければならない。編集委員会からの依頼論文掲載についてはこの規程の対象とならない。抜き刷り印刷代金は別表2の通りである。投稿者の内、1名以上が会員（団体会員を除く）である場合に、会員価格が適応される。101部以上の抜き刷り印刷を希望する者は、別途、編集事務局に相談すること。抜き刷り印刷の頁の超過については、2頁毎を単位とし、超過が奇数頁であっても偶数頁（奇数の超過頁に1頁追加した頁数）として数えるものとする。

## 7. 投稿原稿の書き方

### 7.1 表現および体裁について

7.1.1 投稿原稿は、和文とする。

7.1.2 投稿原稿は、パソコンの汎用ワープロソフトを使用し、A4判用紙に12ポイント（30字×25行）の活字（明朝体。表題、見出しはゴシック体）を用いる。原稿は現代かなづかい、横書きとする。

7.1.3 投稿票は大学等環境安全協議会のホームページからダウンロードして用い、必要事項を記入する。

### 7.2 表題について

表紙には、表題、著者名、所属の順序に書き、著者（複数の著者の場合は代表者）への連絡のため、著者の氏名、郵便番号、住所（または勤務先所在地）、電話番号、Fax番号、e-mailアドレスを記載する。なお、副題を付す場合は、表題（主題）の右に－（ダッシュ）を付けてから記載する。

### 7.3 要旨について

総説、原著、短報、論説、報告については、600字以内の要旨および3～7語程度のキーワードをつける。また、英文の表題、著者名、所属、および和文要旨とキーワードを英訳したAbstractとKey wordsをつける。

### 7.4 本文について

7.4.1 原著並びに短報については、原則として、「はじめに（または、まえがき、緒言）」、「方法（または対象および方法）」、「結果」、「考察」、「結論（結言）」とする。なお、本文、要旨と著しく重複する結論は省略する。

7.4.2 総説、論説、報告、その他については、理論展開と根拠を明確にした章・節による構成とする。

7.4.3 見出しは、原則として大見出し〔1. 2. . . .〕、中見出し〔1.1 1.2 . . . .〕、小見出し〔1.1.1 1.1.2 . . . .〕とし、その他必要に応じて1.1.1.1 1.1.1.2 . . . .、(1) (2) . . . .等を用いる。大見出しは上下1行あけ、中見出しおよび小見出しは上のみ1行あける。

7.4.4 数式には(1) (2) のような通し番号をつける。

7.4.5 計量単位は、原則として国際単位系(SI)を用いる。

7.4.6 文体は、平易な口語体を用いる。

## 7.5 引用文献

文中の引用文献には引用順に番号を付け、引用文献は末尾に一括して番号順に記す。引用文献番号は本文中その項目の右肩に上付きで、<sup>1)</sup> <sup>2)</sup> または3件以上の文献を引用する場合は、<sup>3)~5)</sup> のように通し番号を記す。引用文献は、主要論文、著書等に絞る。引用文献の記載は、原則として次の形式による。

(1) 雑誌の場合…著者名, 著者名: 表題, 雑誌名 巻(号), 引用頁, 発行年.

例① 環境太郎, 安全花子: 大学における安全教育について, 環境安全教育 5(1), 15-20, 2014.

例② Young D. S., Lee D. N.: Training students in chemical handling skills using a laboratory Simulation, *Laboratory Safety* 19(4), 327-341, 2007.

(2) 単行本の場合…著者名, 著者名: 書名, 引用頁, 発行社の所在地名, 発行社, 発行年.

例③ 環境太郎, 安全花子: 環境安全教育のあり方, 56-58, 東京, 安全教育社, 2013.

例④ Gillham B., Thomson J. A.: *Handbook of hazardous chemicals*, 14-40, Boston, Routledge Inc., 1996.

(3) 分担執筆の場合…著者名, 著者名: 分担執筆部分の表題, 編集者名, 書名版数, 引用頁, 発行社の所在地名, 発行社, 発行年.

例⑤ 環境太郎: 野外活動における安全管理, 安全花子編, 大学の環境安全管理第2版, 122-140, 東京, 環境教育出版社, 2014.

例⑥ Taylor I. E., Robert A., Reason J.: Political risk culture, In Bennett P., Calman K. eds., *Risk communication and public health 1st edit.*, 152-169, Oxford, Oxford University Press, 2008.

(4) インターネットから文献を引用する場合…著者名, 著者名: 表題, 発行もしくは更新年月日(記載がある場合のみ), 最終閲覧年月日.

例⑦ 日本環境協会: JEA NEWS メールマガジン第68号, <http://www.jeas.or.jp/news/mail/111101.html>, 発行2011年11月1日, 最終閲覧2011年11月7日.

例⑧ Brookhaven National Laboratory: 2010 Site Environment Report, <http://www.bnl.gov/ewms/ser/>, Last modified at 1 Sept. 2011, Last accessed at 21 Oct. 2011.

(5) 著者名、編者名が複数の場合、3名までは全員を記載し、4名以上の場合は最初の3名のみを記載してもよい。以下「他」(日本語文献の場合)、または、「et al.」(外国語文献の場合)と記す。

例⑦ 環境太郎, 安全花子, 衛生未来他: 新しい環境教育評価指標の開発, 環境安全研究 3(1), 30-40, 2014.

例⑧ Kaplan C., Miller G. E., Klein A. et al.: The comparison of safety culture between in USA and in Japan, *J. Env. Saf.* 47(3), 335-342, 2009.

## 7.6 表について

7.6.1 表は1表ずつ別紙に印字し、引用文献の後ろにつける。表の挿入箇所は本文原稿の余白部分にそれぞれ番号で指定する。

7.6.2 表番号はTable 1, Table 2あるいは表1、表2のようにアラビア数字を用いる。

7.6.3 表の説明は、表の上に印字する。

7.6.4 原著、短報においては、表および表の説明はすべて英文とする。

## 7.7 図(写真を含む)について

7.7.1 図は1図ずつ別紙に印字する。図の挿入箇所は本文原稿の余白部分にそれぞれ番号で指定する。

7.7.2 図と写真は別にせず、Fig. 1, Fig. 2あるいは図1、図2と通し番号をつける。一つの図が2図以上に分かれているときは、それぞれの図中および通し番号に (a), (b) のように枝番号をつける。

7.7.3 図の説明を集めた「図の説明」の頁を付ける。その説明は、和文または英文とし、論文内では同一の言語を使用する。ただし、原著、短報においてはすべて英文とする。

## 7.8 表図についての注意事項

7.8.1 表図はデジタル処理するため、最終原稿では、以下のような電子ファイルを提出することが望ましい。

Microsoft PowerPoint, Microsoft Excel, Microsoft Word, PDF (Acrobat Distillerで作成したもの), WMF (Windows Meta File, ただしWindowsのみ), JPG, TIFF

7.8.2 印刷用には仕上がりサイズの表図を提出する。仕上がりサイズは、横幅17 cm以下、なるべく8.5 cm (1コラムの幅) 以下が望ましい。縦の長さは22.5 cm以下とする。

線は仕上がりの太さが0.5~0.7 pt、文字サイズは仕上がりが8~10 ptとなるように考慮する。

## 8. 著者校正

掲載が決定した投稿原稿の著者校正は、原則として1回のみとする。校正の際の加除筆は原則として認められない。

本投稿規程は平成27年7月23日から適用する。

(別表1) カラー印刷代金表

3万円/頁
-------

(別表2) 抜き刷り印刷代金表

	抜き刷り印刷50部		抜き刷り印刷100部	
	会 員	非会員	会 員	非会員
論文4頁以内の場合	26,000円	32,000円	35,000円	42,000円
論文10頁以内の場合	38,000円	46,000円	50,000円	60,000円
頁超過の場合	2頁超過する毎に 4,000円追加	2頁超過する毎に 5,000円追加	2頁超過する毎に 4,000円追加	2頁超過する毎に 5,000円追加